

(f) 災害時における人流・物流の確保 [5,771 億円(1.25)]

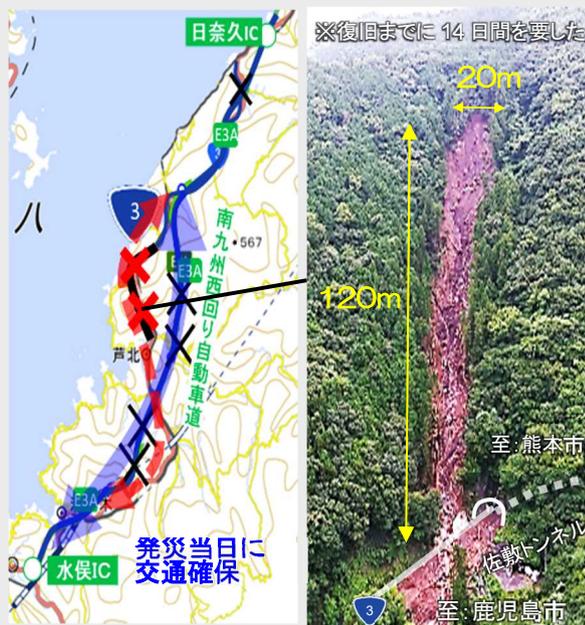
災害発生時であっても輸送ルートが確保されるよう、啓開体制を構築するとともに、地震、豪雨、豪雪等を想定した防災対策を推進する。

- ・ 迅速な復旧・復興のための高規格道路のミッシングリンク解消や4車線化、高規格道路と直轄国道とのダブルネットワーク化等による道路ネットワークの機能強化対策の推進
- ・ 大規模災害に備えた道路等の防災・減災対策の推進
- ・ 大雪時の道路交通確保に向けたソフト・ハード両面からの取組の強化
- ・ 緊急輸送道路や生活道路等の電柱の占用制限拡大や低コスト手法による無電柱化推進
- ・ 駅や橋梁等の鉄道施設の耐震・豪雨・浸水対策の促進
- ・ 港湾の基幹的広域防災拠点における緊急物資や支援要員の受入体制の構築
- ・ サプライチェーンの多元化や関係者連携等を通じた災害時における強靱な物流システムの構築
- ・ 空港における護岸かさ上げ等による浸水対策の推進

【コラム】 高規格道路と直轄国道とのダブルネットワーク化や4車線化による災害時の効果

令和2年7月豪雨では、全国各地で道路が被災した一方、高規格道路と直轄国道のダブルネットワーク区間や高規格道路の4車線区間が、早期交通確保に効果を発揮し、被災地の復旧活動を支えました。(例:南九州西回り自動車道と国道3号のダブルネットワークによる八代～水俣間の発災当日の交通確保、九州自動車道や大分自動車道の4車線区間を活用した発災数日の交通確保)

災害に強い道路ネットワークの構築に向けて、高規格道路のミッシングリンクの解消や4車線化、高規格道路と直轄国道とのダブルネットワーク化等による道路ネットワークの機能強化対策を推進します。

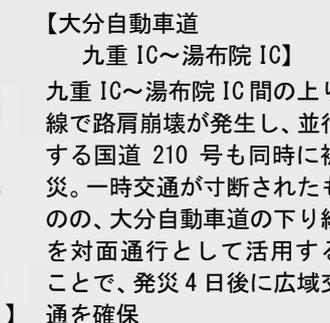


【南九州西回り自動車道と国道3号のダブルネットワーク】
国道3号が大規模土砂災害により2週間以上通行止めとなったが、並行する南九州西回り自動車道により発災当日に八代～水俣間の広域交通を確保



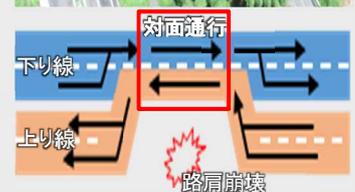
【九州自動車道 横川 IC
～溝辺鹿児島空港 IC】

土砂崩れなどにより通行止めが発生したが、4車線区間であったことから、被害のない車線を活用し、発災当日に交通確保



【大分自動車道
九重 IC～湯布院 IC】

九重 IC～湯布院 IC間の上り線で路肩崩壊が発生し、並行する国道210号も同時に被災。一時交通が寸断されたものの、大分自動車道の下り線を対面通行として活用することで、発災4日後に広域交通を確保



<盛土による災害の防止に向けた総点検を踏まえた対応>

※ 盛土による災害の防止に向けた総点検を踏まえた対応については、事項要求を行い、予算編成過程で検討する。

【コラム】盛土による災害の防止に向けた総点検と対応策の検討

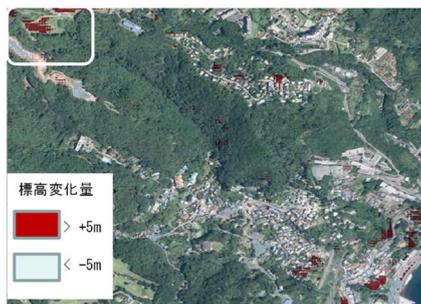
梅雨前線による大雨に伴い、令和3年7月3日に静岡県熱海市伊豆山の逢初川において土石流が発生し、下流で甚大な被害が発生しました。政府では、今回の災害対応を教訓として、今後起こり得る豪雨や台風等への対応に万全を期し、被害の発生を最小限に抑えるよう、関係機関が一体となって、盛土による災害の防止に向けた総点検と対応策の検討を行うこととなりました（「令和3年7月1日からの大雨に係る支援策とりまとめ」）。

これを踏まえ、第1回関係府省連絡会議が8月10日に開催され、関係府省・地方公共団体が一体となって、土砂災害警戒区域上流域及び区域内の盛土や大規模盛土造成地等について、許可・届出等の情報や盛土可能性箇所等を参照しつつ点検を行い、年内を目途に暫定とりまとめを行います。点検状況等を踏まえ、行為者による是正措置を基本に、盛土の撤去や対策工の実施など危険箇所への対応や土地利用規制など安全性を確保するために必要な対応策を検討していきます。



静岡県熱海市伊豆山で発生した
土石流災害

【盛土可能性箇所 (標高差+5m以上の抽出(イメージ))】



基盤地図情報と航空レーザ測量の標高差分データから
地形変化可能性箇所を抽出(国土地理院作成)